

林病院

院内断酒例会を再開

支え合う仲間

第9号

発行
林病院OB会

発行責任者

浅口市金光町八重190-1
加賀純雄
TEL090-9410-3593

林病院院内断酒例会 再開に思う

林病院OB会会長 加賀純雄

二〇二〇年三月より、コロナ感染症拡大により中止となっていた林病院院内断酒例会が、二〇二三年五月一〇日より再開しました。三年間か月ぶりの再開に「待ちに待っていたこの日が来た」と大変うれしく思っていますが、開催出来なかった3年の月日は長く、私が退院し林病院院内断酒例会に参加していた当時、色々とお話を頂いたOBや、断酒会の先輩会員の姿が再開した林病院院内断酒例会に無いのは寂しく思います。

しかし、断酒会・林病院OB会に入会

います。

「今この気持ちを話されて、私も退院し林病院院内断酒例会で不安な思いや、これからへの希望を話した当時を思い出しました。自分が、断酒をする原点を改めて考えさせて頂くことが出来ました。林病院院内断酒例会を通じて一人でも多くの人が、酒害から回復の道を歩んで行かれるよう、多くの仲間と共に酒害体験を話し、林病院院内断酒例会を継続して行きたいと思



院内断酒会の再開について

北二病棟看護師 住木憲治

院内断酒会（以下、院内例会）が約三年ぶりに再開することになりました。ようやく、北二病棟も本来の治療活動に戻ることが出来ます。

昨今、断酒、減酒の研究が進んでおりますが、やはり治療の根幹にあるのは、通院、抗酒剤、自助グループの三本柱です。私は、この三本柱は断酒する上で普遍的なものだと考えております。

コロナ禍、自助グループ活動が制限されたこの三年間は、院内例会の大きな役割を再認識する機会でした。コロナ禍に入院されたアルコール依存症の方は、院内例会を経験することが出来ませんでした。そのため「断酒するための努力の場」を経験することなく退院された方が多く、断酒に至る人が少なかったと感じます。入院し、学習を通じて酒害の知識を得ても、実際に断酒への行動を起こさなければ意味はありません。院内例会とは、知識を実学へと昇華させていく場なのだとつくづく実感しました。

院内例会に参加して

北二病棟看護師 岸本玲奈

私は林病院に入職して二年目なのでコロナ禍の院内例会しか知りませんでした。病棟のデイルームで行う三十分程度のものしか知らず、患者さんたちも短時間の中でのことなので自身の経

院内例会が再開して

デイケア看護師 安井早織

林病院院内例会が三年ぶりに再開されました。三年間の間、院内の病棟でのミニ例会は開かれていましたが、外部の方の体験談を聞く場はほぼ無いに等しい状態であったため、このような体験談を聞く場が再開できたことは大変喜ばしいことだと思います。また、断酒会員の方、OBの方にとっても大切な断酒仲間との繋がりが薄くなりがちな三年間であったのではないかと思われます。

同じような経験をしたからこそ分かります。共有や希望の分かち合い、情報交換が出来ることが、自助グループであると思えます。そのような場が院内で持つことが、初めてアルコール依存症と

験を赤裸々に話される方は、ごく一部のみに限られていました。五月十日からコロナ前の状態での開催となり、想像していたよりも多くのOB、断酒会メンバーさんが参加され、院内例会の本来の形に圧倒されました。自身の人生を人前で話すことはとても勇気のある事ですが、OBの方たちの話を聞いて「壮絶な人生に驚き、断酒し例会に参加できていること」もすごく頑張ったのだなと感じました。「連鎖の握手」の本来の形を見たことが無いので、今後はみんなで連鎖の握手が出来ればよいと思います。

「この病気で向き合う方に、紹介しやすく、体験してもらえ環境に戻ったことは、入院している方にとっても、デイケアや外来で通院されている方にとっても大変大きな意味を持つ事と改めて感じました。」

「今後アルコール依存症に関わる方たちにとって心のよりどころになる場であると思うています。」

院内例会再開ハンザイ

岡山東支部 馬越和人

院内例会再開おめでとございませす。パチパチパチ(拍手)

入院中は、お正月・お盆・ゴールデンウィーク中でもARPとして開催されて、嫌で嫌で仕方なかった院内例会もコロナの影響で二年余り休会となり、やっと酒を止め続けてた私には、嫌いだっただ院内例会も出席出来ないとなると不安で仕方がなかった。

やはり、酒を止めたい・酒を止め続けたい仲間や、先生・病院スタッフさん又これから酒を止めようとしている入院患者さんに会う事で「よし、今日も頑張るぞ」と、パワーをもらっていたんだなあと思いき直しました。

まだまだ感染拡大防止の為色々な制限はありますが、院内例会再開がとてうれしいです。

これからも例会出席を大事にし、一日一日を大切に頑張ります。

林病院院内断酒例会再開に思う

岡山東支部 山口 駿

十年前ひまわりホールが出来た頃、私は毎週院内断酒例会で患者側に座ってました。「最初の一杯に手を出すな」と言うテーマの時、「手が使えないのなら足で飲んでやる」と言ったそうです。覚えておられる方がいらっしやるのでそうなんですよ。

いま私は月に一度、院内断酒例会でOB側に座らせて頂いています。アチラからコチラに変わっただけで、人間はさほど変わっていません。しかし、酒は今年切れています。

十年前、「法律で自助グループに繋がらなければ退院出来ない」となっていたら酒は止められたでしょうか。勿論そんな事は許される筈はありませんが、法律がどうであろうが世界中を敵に廻そうが呑んできた酒です。そんな簡単に止まれば苦労はしなかったと思います。

十年前林病院に入院していた私と、今の私の違いは「酒をどうにかしたい」という思いから、紆余曲折を経てたまたま、自助グループに繋がっていることだけです。

院内断酒例会閉会后、患者さんと一緒に北二病棟に帰り風呂に入りたいなと思う日すらあります。この原稿が「支え合う仲間」に載っている頃には、入院生活を送っているかもしれません。まだ断酒一年です。

これからも末永くよろしくお願いします。院内断酒例会参加します。

一年表彰受賞者の紹介

林病院OBの完全断酒一年本部表彰の受賞者を紹介いたします。

◎四月十五日受賞

山口 駿さん(岡山東支部)

林病院OB会レクリエーション開催

玉野支部 前田吉則

二〇二三年五月二〇日十一時より後楽園蓬萊橋下で林病院OB会総会、十二時より林病院OB・OB会員二〇名の方が参加され、当日天気心配はありましたが無事開催することが出来ました。

昨年はまだコロナ感染症の影響もあり、操山公園里山センターでお弁当を食べましたが今年はコロナ感染症がら類に移行したという事もあり、三年ぶりにBBQでの開催となりました。

普段あまりお会いする事の出来ないOBの方や、新たにOB会に入られた方も参加され、入院当時の話やいろんな失敗談、断酒に繋がるまでの話を聞くことが出来、楽しい時間を過ごす事が出来ました。

しかし、今年も林病院から先生・スタッフの方はコロナ感染症の影響で参加することが出来ずさみしい思いもしましたが、病院も徐々に規制緩和が行われているので今後に期待したいと思います。

BBQという事もあり前準備で何度

も打合せをし、当日も設営など色々大変なこともありましたが、皆様のご協力もあり無事に何事もなく終えることが出来ありがとうございました。改めて林病院OBの結束力を感じる事が出来ました。

来年のレクリエーションに向けて『もっと強く』『もっと賢く』『もっと真剣に』『やろう!!やろう!!やろう!!』

